The Young Women's Christian Association
YWCA

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第31総会期主題
平和を実現する人々は幸いである－マタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015
(1)・非核・非暴力により平和を実現する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・原発のない社会をつくる
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
(2)女性と子どもの権利をまもる
(3)若い女性のリーダーシップを養成する

8
AUGUST 2015
No.727
www.ywca.or.jp

特集 多様で平和な社会をつくる
4-5面 インタビュー:隣人と共に生きる
6面 加盟YWCA中央委員会
7面 被災者支援 支援者のためのワークショップ

呉光現(オ クアン ヒョン)
Kwanghyun Oh

profile
日韓交流や在日コリアンの地域福祉に取り組むNPO法人聖公会生野センター総主事。
1957年大阪生まれ。大阪市立大学文学部卒。
在日朝鮮人2世(在阪済州島人)。
在日大韓キリスト教大阪教会教会員。

共生への道
ヘイトスピーチに抗して

2015年5月17日は日本にとって記憶すべき日になるかもしれない。

大阪市解体を問う住民投票が行われたこの日、沖縄辺野古の基地建設反対集会が、数万人の規模で開催されたのだ。大阪と沖縄の共通点、それはまさに、「参加」「意思表明」の権利の行使、そして平和と自治を守る闘いである。

法律上、私たち在日外国籍者には選挙権はないが、住民投票条例は、投票資格者の範囲を自由に制定することが可能であるとしている。しかし、今回の住民投票では、私たち11万人以上の外国籍大阪市民は排除された。それでも多くの在日外国籍者が住民投票運動に参加し、一票はなくても闘った。街づくりを一緒にしている人たちが、「外国人」ということだけで排除されてきたのが、日本の戦後の歩みである。今や200万人以上の外国人が住み、1300万人以上の外国人が訪日するという、多文化社会が進んでいる状況を考えると、日本は大きく変わらなくてはいけない。

私たちの人権運動が本格化してきた1980年代、私たちは自分の地域の自治体に「私たちも市民なのですか?」と問いかけた。いつも返事は「はい、市民です。しかし外国籍の方はおのずと制限があります」とのことだった。

この日本社会は、「少数者」を隅に追いやって来た社会でもあった。共存はしても、共生はしてこなかった。ある時はその存在すらも「侵略」「戦争」「植民地支配」などで冒してきたのが、私たちの住んでいるこの日本である。明治前後から、アイヌモシリ(北海道)、琉球(沖縄)、台湾、朝鮮、そして侵略・支配してきた地域で、常に「日本人でない」人々を「日本人化」してきたのである。

日本人に「してもらう」ことは同時に「二級国民」であることを強いられることだった。今は亡き私の両親は、常に「日本に住ませてもらっている」「日本に逆らったらいけない」と語っていた。私たちはしかし気がついた。私たちは人であり、堂々と生きていっていいんだ。それからだ。私たちが声を

エンパワーするNGO YWCA

YWCAの本棚

『歌集―
小さな抵抗
殺戮を拒んだ日本兵』
岩波現代文庫
1,058円

book review

渡部良三さんは、父の心を戦場で貫いた一信仰者です。学徒出陣を前に父は語ります。「一介の兵士でも、戦場にあって神様のみ心にかなう行動をする余地が必ずあるはずだ。事にあたり判断に苦しむときは祈れ。心を粉飾するな。神様は答えて下さる」。河北省で、捕虜を銃剣で突く訓練を拒否して死の直前までのリンチを受け、その後も要注意人物として激戦地を転々としながら生き残り、七百もの歌を密かに持ち帰ります。

「殺す勿(なか)れ」そのみおしえを
しかと踏み
御旨(みむね)に寄らむ惑うことなく

生きのびよ獣にならず生きて帰れ
この酷きこと言い伝うべく

主(しゅ)の裁き厳しかるべし殺さるる
八路(はちろ)を見つつ黙しおおせば

強いられし傷み残れど侵略を
なしたる民族(たみ)のひとりぞわれは

捕虜五人突き刺す新兵(へい)ら四十八人
天皇の垂れしみちなりやこれ

いかに人は殺されたか、かくまで人は「獣」でありえたか、という戦時の人間の本性に慄然としながら、大義の下の虐殺行為の渦中に「殺すまい」とするには、自分の死を覚悟するというその経験。そして、「侵略をなしたる民族」の、実は「ひとりぞわれは」という罪意識は、時代を越えて私たちの心を打ちます。

同時に、渡部さんが戦後、「八路[注]」の痛みに対して沈黙したことに自らも痛み、その責を負うものとしての立場を表明した姿に、私たちの目を転じもさせます。

安倍政権の暴走に抗する道を模索する今、有効な手段として示されているのは、第二次大戦中の実に些細な事象をも探し出し、驚き、そこから示された道を、一人の私として生き抜くことだと思います。

東京YWCA会員　杉村みどり

注:日中戦争時に華北方面で活動した中国共産党軍の通称

日本YWCA 職員募集
詳しくはウェブサイトをご覧下さい。 http://www.ywca.or.jp/staffbosyu.html

ご協力ありがとうございます

賛助費
実生律子　大野綾子　仁木三智子
原田早苗　桃井明男　武内雷貴代
花盛静子　鶴崎祥子　江尻美穂子
内海公子　田中愛子　松本京子
俵　恭子

ピースメーカーズ募金(平和を創り出す女性のリーダーシップ養成)
鶴崎祥子

災害時支援募金(ネパール大地震被災者支援募金)
伊藤眞一郎　実生律子　花輪正士
磯村美保子　野村潤子　八木亀子
神門佐千子　松本京子　外山真理
武内雷貴代　関　むつみ
仁木三智子　大野綾子
横浜共立学園中学校・高等学校
たふあかみ会　甲府YWCA有志
新潟YWCA　静岡YWCA
名古屋YWCA職員一同
加盟YWCA中央委員会日曜礼拝献金

オリーブの木キャンペーン募金
田中倍子　重松よし子
田林綱紀　田中愛子

東日本大震災被災者支援募金
小林瑛子　武内雷貴代
川崎純子　実生律子
中高YWCA委員会
大阪女学院中学校・高等学校
捜真女学校中学部・高等学部奉仕委員会
一般財団法人呉YWCA

世界YWCA総会派遣募金
山本貴美子　鶴崎祥子　藤井初子
糸洲のぶ子　遠藤真理　他一同
甲府YWCA　松山YWCA
新潟YWCA
一般財団法人仙台YWCA
公益財団法人名古屋YWCA
一般財団法人平塚YWCA
(2015年4月21日～2015年6月15日現在 敬称略)

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121 Fax.03・3292・6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子／偶数月1日発行

旬な情報発信しています　メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp にお名前を送ってください ／ フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan

メールにてご意見・ご感想をお寄せください。今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。 office-japan@ywca.or.jp

無断での複写・転用・転載はご遠慮ください。

上げたのは。

21世紀を目前にし、「次の世紀は人権と環境の世紀である」とよく言われていた。しかし21世紀は、20世紀以上に戦争の世紀になってしまった。

私たちに突然「ヘイトスピーチ」なるものが襲ってきた。まさか在日4世・5世が生まれているこの時代に、「朝鮮人殺せ！」という罵声が、白昼公然と一般市民の前で繰り広げられる世になるとは思いもしなかった。2013年2月24日、大阪鶴橋で中学2年生の女の子が「鶴橋大虐殺をしますよ」と叫ぶのを、道を挟んで聞いたときは、胸がバクバクして、地底深く吸い込まれて落ちていく感覚に襲われたのは忘れることはできない。

人権は、少数者から侵害される。沖縄の基地の問題は「本土」でないからこそ解決しない。沖縄の人たちが東京で「基地が重要なら平等に負担を！」と求める声に「売国奴」と叫んだ人たちがいた。在日コリアン差別と根がつながっている日本の病巣だ。

大阪市の分割という最悪の事態は避けられたが、この「住民投票」が憲法改悪のための国民投票の予行演習だと、どれだけの人が感じただろうか？ほぼ同数の賛成と反対。とても大切なことを、まっとうな論議もせずに強行した政治文化、それは文化ではなく暴力だと思ったのは私だけであっただろうか？翌日のテレビで、結果を評して「高齢者と生活保護者が大阪の改革を妨げた」と語る司会者がいた。もし私たちにも一票があったら、私たちも非難されたのだろうか？

ヘイトスピーチの嵐が吹き荒れていた昨年、「OSAKA AGAINST RACISM 仲良くしようぜパレード2014」が大阪の中心地で行われ、私も参加した。そして、すでにこの大阪が、いやこの日本が「多様な街・〝ダイバーシティ〟」であると実感した。それは、私たち在日韓国朝鮮人や日本人だけではなく中国人やフィリピン人、その他のアジアの人々、パレスチナに平和を求める人、レインボーに象徴される多様な性の人々が、自分たちの文化を誇らしげに掲げながら楽しく過ごしたひと時であった。そこには、喜び、楽しみ、祈り、怒り、悲しみが一つの大きな波となっていた。一つ一つ積み重ねて来た人権の回復を、根底から「抹殺」しようとする醜いヘイトスピーチ。それに向き合ってきた若い世代が中心になって、「私たちはすでに一緒にいる」と高らかに宣言した瞬間であった。まさに共存から共生への道がこの時この空間にはあった。その多くの仲間たちが大阪の住民投票に関わり、そこから辺野古に馳せ参じている。

パレードで若者たちが、「一緒に生きよう」、「基地はいらない」「いろんな人がいていいじゃない」とその歩みを始めた。私はここに、日本の、そして私たちが住む世界の希望を見出したい。

OSAKA AGAINST RACISM　仲良くしようぜパレード2014

種

（イエスは）五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになった。弟子たちはそのパンを群衆に与えた。すべての人が食べて満腹した。

（マタイによる福音書14章19節～20節）

神学校在学中、アメリカの教会で実習をしました。教会には空軍基地が隣接していたため、軍関係者が多くいました。国籍も境遇も考え方も私とは全く違う人々を前に、どうしたら関係を築くことができるか悩みましたが、ともかく相手の話を心から聴き、一緒にご飯を食べることにしました。

退役軍人のサムとは全く意見が合いませんでした。ある日、サムに私の作ったジェロ（ゼリーの一種）をすすめると、サムは、「これはよくできている」と褒めつつジェロ談義を始めました。「ジェロも奥が深いんだね」と感心して言うと、サムはにっこり笑ってジェロを平らげました。その後、サムはいつもさりげなく私を助けてくれました。

食事を共にすると、相手が自分と同じ大切な存在であることに気づきます。聖書には、イエスの話を聞くために5千人の群衆が集まったとあります。仕事も考え方も年齢も全く異なる人々だったことでしょう。この多種多様な人々は、5つのパンと2匹の魚を食べて満腹しました。一緒に食べることは、人を結びつけるのです。

安川　美歩
シカゴ・ルーテル神学校卒　熊本YWCA会員

留学生と学び合う

熊本YWCA「ネイバーズ（国際隣人会）」

熊本YWCAネイバーズは、留学生とそのご家族と交流するための活動です。日本語をほとんど理解できない方も、書初め、おせち料理やお弁当作りなどに挑戦しました。参加者の出身国は、アジア、アフリカ、中南米、中東などさまざま。そこで、各国の歴史や風土・教育について学ぶ会や料理教室などを開催しています。草の根の活動ですが、「隣人（ネイバーズ）」との心温まる交流を楽しんでいます。

熊本YWCA会員　竹屋純子

インド料理を手で食べる練習中

おせち作りに挑戦する留学生

インドの留学生に教わった夏向きのレシピです

ヨーグルトサラダ

材料　5人分

- キュウリ……3本
- タマネギ……1/4個
- 塩……小さじ1
- レモン……1/4個
- 青唐辛子……2本
- ブラックペッパー
- ヨーグルト……100g

作り方

1. キュウリとタマネギはスライスにする
2. ①に残りの材料を加え、混ぜる

ラッシー

材料　5人分

- ヨーグルト……1カップ
- グラニュー糖……大さじ2
- カルダモン……1振り
- 氷……3個くらい
- ココナッツロング……少々
- ピーナッツ……少々

作り方

1. 材料を全部ミキサーに入れて混ぜる
2. グラスに入れて砕いたピーナッツをトッピング

YWCAの映画館

映画
『みんなの学校』

真鍋俊永監督
2015年制作

公式サイト　http://minna-movie.com/

大阪市立南住吉大空小学校の1年間を追ったドキュメンタリー。できて10年ほどの新しい学校だ。その新校への赴任時、校長の木村泰子先生は大変な入学式を経験する。一人の子どもが式の間中体育館を走り回り、正直「この子さえいなければ、無事済ませられるのに…」との思いがよぎったという。だがある雨の日、教室を飛び出していこうとしたその子を、雨の日の廊下は危ないからと、急いで呼び止めようとした特別支援担当の先生自身が、廊下で滑って転んでしまう。すると、その子が急いで戻ってきて「だいじょうぶ？」と声をかけたのだ。たまたまその場に居合わせた校長先生の中で、その瞬間、何かが変わった。一部始終を見ていた周りの子や教職員の間でも意識が変わった。「この子の中にも、こんなにひとを思う気持ちがあるんや」と気づかされたのだ。一人ひとりの中にあるそういう芽が、安心して育っていけるようにするのが地域の学校の役割ではないか、と校長先生は思うようになる。そうした深い気づきが原点にあるからだろう。校長先生の中には、どんな子のことも信じて、是は是、非は非としながら子どもたちに対して接する、また新米の先生に対しても同様に接していく一貫した姿勢があり、それが他の先生や保護者や地域の人々との温かな連携を可能にしてもいる。

どんな子も一緒に、真剣に、みんなで育てる―目に見えない代え難い学びを、関わるすべての子どもや大人に差し出している学校、それがこの「みんなの学校」である。

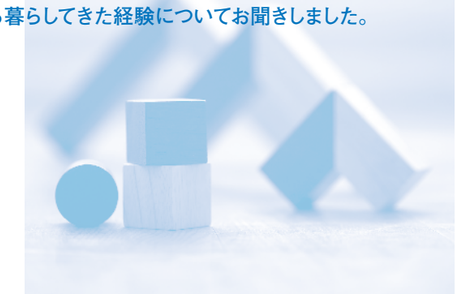
編集部（A. N.）

Interview

隣人と共に生きる

マレーシア・ムスリムの友と出会って

グローバル化の中で、多様な文化的背景や価値観を持つ人々と出会う場面が増えています。異なる人々が共生していくには何が大切なのか。マレーシアから来日後、大学で教員として働きながら二人のお子さんを育ててきたファリダさんと、パートナーのサイドさんから、日本社会でイスラムの信仰を守りながら暮らしてきた経験についてお聞きしました。



サイド・ザイヌッディン・サイド・ハールンさん
Syed Zainuddin Syed Harun

ファリダ・モハメッドさん
Faridah Mohamed

子育てをしながら感じたこと

ファリダ：来日して27年になります。大学生の娘と高校を出たばかりの息子は、日本の公立学校に通いました。私は24歳で留学生として来日しましたが、当初は日本語や日本の文化、教育システムがわからず、大変でした。

たとえばマレーシアでは、子どもの誕生日にケーキをクラスの皆にふるまって祝います。日本でも同じようにしたら怒られてしまいました。他の子はケーキを持ってこないので不公平になるからということでした。幸せな時を分かちあうのはマレーシアでは当たり前なことなので、最初は理解できませんでした。

娘が中学生の頃、親に黙ってスカートを巻き上げて丈を短くしたことがありました。鞄の中から化粧道具が見つかったこともあり、そのときは厳しく叱りました。私は娘にムスリムとして育ってほしい。でも娘は、友達と同じようにしないとグループに入れなかったのです。実際、娘が友達と同じことをしなくなってから、誰も話しかけてくれなくなり、お弁当を食べるときも一人ぼっちだったそうです。友達がいなくても家族は味方だと私が言い続けたので、なんとか少し強くなりましたが。

イスラム教の信仰と食べ物の経験

ファリダ：ハラルフード注を用意すると提案してくれた学校もありましたが、調理師さんに聞いたら、調理の段階では完全に分けられないとのこと。ですから、子どもたちには家で作ったものを持たせました。ラマダン（断食）のときも大変です。日本の先生は、水やジュースなら与えてもいいか、給食のときは匂いがしてかわいそうだから校長室に連れて行こうか、などと電話をかけてきてくれました。でも、子どもには、自分自身の体調をしっかりみて必要なら断食を中断してよいと教えていますから、大丈夫なのです。クラスの皆が給食を食べているときは、教室の後ろで自習をして待てばよいのです。

食べ物のことといえば、食事に招いてくださった方に、食後になって「実はあのスープには豚が入っていたのよ」と言われたこともあります。冗談のつもりだったのだと思いますが、信仰の問題は繊細なことがらなので、とてもショックでした。

注：イスラム教の律法に則って処理された食べ物。豚肉やアルコール、規定以外の方法で処理された肉などは禁じられている。

隣人とイスラムの教えについて

ファリダ：アパートの上階の年配の女性のゴミを出してあげたり、食べ物を届けたりしていたことがありました。すると別の日本人に「あまり深く関わらない方がいい、何か物がなくなったりしたら真っ先に疑われるよ」と言われ、ショックを受けました。また、私たちはよく、周りの人のために料理を持っていきますが、「お返しは何がよいですか」と聞かれます。いただくばかりでは負担だというのです。ある年代以上の日本人は特にそのようです。けれども、私たちは助けた人からお返しをもらうために人に親切にするのではなく、それを覚えてくださる神が、巡りめぐって私や子どもたちを助けてくださると信じているからです。

コーランには、自分が神との関係において間違いをおかしたときには、断食するか、貧しい人々を助けるか、食べ物を差し上げることで、悔い改めを示すべきと記されています。マレーシアでは日常的に、料理を作って教え子に分けていましたが、日本では許されません。食べ物は衛生上の問題もあるので、今は買ってきたものを配っています。

サイド：ムスリムが守るべき信仰行為は、信仰告白、礼拝、喜捨、断食、メッカへの巡礼の5つです。収入の2・5％を捧げる喜捨は、神への信仰を具体的に表すために自主的に捧げるもので、貧しい人々のためなどに使われます。

私たちは、教えを正しく子どもたちに伝えていけば、死後に良い報いがあると信じています。そして、人を助ければそれを神が知っていて、自分の子どもたちが助けを必要とするときに手が差し伸べられると考えます。日本の人には少しわかりづらいかもしれません。自分の人生が他の人に支えられて順調に進んでいるときは、神に感謝します。同時に、自分の親や先祖が周りの人を助けてきたことが私に巡ってきているのだろうと、親たちに感謝します。同じように、私は子どもたちや子孫のために、今自分ができることを探すのです。

ご夫妻心尽くしのマレーシアの家庭料理

インタビュー後記

お話からは、日本の社会には、異なるあり方、特に宗教的な敬虔さや信仰への理解と敬意が不足しており、同調圧力が強く働いているのではないかと感じられました。そうした環境で暮らしながらも、子どもの教育や食べ物、人との関わりなどにおいて最大限イスラムの教えを大切にしながら、周りの人との温かい人間関係を築いてきたお二人の姿勢に、異なる人々が共に生きていくうえで大切なことを、あらためて教えられる思いでした。

インタビュー・構成　編集部

2015.
5.23-24

加盟YWCA中央委員会

変革：次総会期に向けて

毎年5月に開催される「加盟YWCA中央委員会」は、全国の地域YWCAから会員・職員の代表が集まり、全国の現状と課題に理解を深め、将来構想について話し合う場です。今年の中央委員会では、今総会期の最終年となる2016年を前に、次総会期に向けてYWCAが時代に合わせてどのように変化し、社会のニーズに応えていくべきかについて討議しました。

日本YWCA理事会・運営委員会・総幹事会は、今後のYWCAの組織と運動について協議を重ねてきました。

今後の方向性について、加盟YWCA中央委員会（以下中央委員会）で共有。来年の中央委員会に向け、これからも以下の課題について、地域YWCAとのやり取りを続けていきます。

- 地域YWCA（社会貢献活動の推進拠点）と日本YWCAの役割（広報・財源確保・研修）を整理する
- 明解なビジョンを設定する
- 加盟条件など、仲間の増やし方を見直す

YWCAの新しい未来を描くため、吉田知津子さん（「ハンズオン！埼玉 副代表」）を迎えて行われたワークショップ「次総会期に向けたビジョンをつくろう！」。

まず、自分たちのしたいことをするのではなく、「自分たちのしていることは誰のためか」ということを明確にして物事を決めること、また決めたことを全員が同じように理解する納得のプロセスの重要さが確認されました。また、物事の伝え方として、ただ自分が言いたいことを言う（広告）のではなく、つながりたい相手に合わせて、どのようなパッケージに包んで伝えるか（広報）が大切であるという基本を押さえました。

吉田知津子さん

続くグループディスカッションでは、「YWCAの窓から見える社会」がどのようなものかを話し合い、YWCAの問題意識を言語化しました。その社会的課題を解決できるYWCAの魅力・特徴とは何かを話し合った結果、「異なる世代が出会う・食べる・交流する場や機会を継続的に提供している」ということで意見が一致しました。YWCAの次のビジョン策定に向けての具体的なヒントが見えてきました。

なお、特定非営利活動法人東京YWCA福祉会の準加盟が承認され仲間が増えたこと、10月の世界YWCA総会に向けた動きを全国のYWCAが共有できたことも、今年の成果でした。

YWCAらしさを生かしつつ、社会の変化に合わせて変えるべきところは勇気をもって変えていく。変革に向けての1年が始まります。

日本YWCA
書記　藤谷佐斗子

中央委員会の最後は、辺野古埋め立て反対の国会包囲行動

#noXcuses

女性や少女への暴力は絶対にダメ！あなたもその意思表示に参加してみませんか？やり方はカンタン！非暴力を表す紫（パープル）を仲間と共に身につけて、手で×を作って写真をパチリ。10月第3週のYWCA非暴力週間で、あなたの取り組みをご紹介します。他の素敵なアイディアのパープルアピールもぜひ。多くの方のご参加をお待ちしています♪

中央委員会参加者も暴力にNO!

YWCA パープル キャンペーン

YWCA Purple Campaign

あなたの取り組みのお写真を日本YWCAに送ってください。
office-japan@ywca.or.jp
締切：9月30日

保養キャンプ実施団体のためのワークショップ

@YWCA活動スペース「カーロふくしま」

ベビーカーに取り付けた測定器で通学路の放射線量を測定

2015年6月8日、「保養ワークショップ」が福島で開催された。放射能被災地の子どもや親子のためのリフレッシュ（保養）キャンプに取り組もうとする団体のために、日本YWCAが初めて企画したこの講座に、神戸から参加した。講師は、福島で移動教室・測定に取り組んでいる吉野裕之さん（NPO法人シャロム）、市民レベルで放射能測定をしている清水義広さん（NPO法人ふくしま30年プロジェクト）、被災者支援ネットワークの佐藤洋さん（TEAM毎週末みんなで山形）だった。

まず、吉野さんがベビーカーに取り付けた「ホットスポットファインダー」で、中学校通学路の放射線量を測定した。高性能測定器で測ったデータをPCに取り込み、地図上に数値を「見える化」するというこの機器は、地面から10センチ・50センチ・1メートルと3カ所の高さで空間の放射線量を測定できる。高さによる違いが明らかだ。草むらや木製のベンチ、木の幹、道路端の段差、新旧アスファルトのつなぎ目、排水溝などに、放射線管理区域並みのホットスポットが隠れている。吉野さんは言う。「どう被曝を少なくするかを考えるために、測定値を利用してほしい。例えば毎日の通学で線量の高い道を避けるなど、日常生活に役立てることが可能です」。

続いて佐藤さんより、「3・11受入全国協議会」発行の『ほようのみちしるべ』をテキストに、保養プログラム実施の際の注意点について話を伺った。まず、子どもたちの人権を守る、医療スタッフの常駐、保険に必ず加入する、などは基本的なことである。さらに、プログラムを詰め込み過ぎず、心身共にリラックスできる内容にすることが、参加者が元気になって帰れる秘訣だという。参加者と支援者の交流や参加者同士の交流も大切だが、それぞれの関係性を大切にし、無理強いはしないように心がけているそうである。

現在、保養の実施数が全体に減少していることもあって、長期間のプログラムだけではなく、気軽に行ける保養の需要も高まっているという。佐藤さんの団体は、山形で週末の短期保養を実施している。地元の方の協力も得ながら、季節ごとに餅つきや田植え、稲刈り、冬はかまくら作りなども行っているそうである。

これまで神戸に保養に来た一人ひとりが、ただ道を歩いたり、葉っぱを触ったりすることを、いとおしむように楽しんでいた姿を思い出した。福島の日常を知ることで、保養の必要性についてあらためて考えた。今後の支援活動に少しでも役立てていきたい。

神戸YWCA　被災者支援担当職員
西本玲子